

## 日清製粉グループ 第3四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

### [2023年3月期第3四半期連結累計期間決算]

売上高	6,000億5百万円	(前年同期比118.7%)
営業利益	254億62百万円	(前年同期比97.4%)
経常利益	270億40百万円	(前年同期比92.0%)
親会社株主に帰属する 四半期純損失	△229億12百万円	(前年同期比 — )

**通期連結業績予想について、営業利益及び経常利益は、直近予想を据え置き。最終損益は、政策保有株式の売却益を追加で織り込み、上方修正。**

(株)日清製粉グループ本社(取締役社長:瀧原 賢二)の2023年3月期第3四半期連結累計期間につきましては、国内では新型コロナウイルス感染症の再拡大があったものの、感染対策と社会経済活動の両立が進み、景気は緩やかに持ち直しております。一方、原材料価格の高騰、エネルギー価格の上昇、為替相場の円安の影響等もあり、国内では企業物価指数が歴史的な上昇を見せており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、国内製粉事業での麦価改定に伴う小麦粉価格改定の実施、海外製粉事業における小麦相場上昇や為替換算の影響等により6,000億5百万円(前年同期比118.7%)となりました。営業利益は、国内製粉事業におけるふすま価格の堅調な推移、海外製粉事業の業績好調等があったものの、食品事業において加工食品や医薬品原薬等の出荷減、原材料等の想定以上のコスト上昇に価格改定が後追いとなったこと、インドイースト事業の立上げ費用の発生等により、254億62百万円(前年同期比97.4%)、経常利益は270億40百万円(前年同期比92.0%)となりました。また、昨年10月19日に公表のとおり、第2四半期において豪州製粉事業における減損損失を計上したことにより、政策保有株式の売却益の計上はありましたが、親会社株主に帰属する四半期純損益は、229億12百万円の損失となりました。

### [2023年3月期通期連結業績予想]

当社グループは、小麦粉をはじめとする「食」の安定供給という社会的使命を果たすとともに、グループの最優先課題である食糧インフレに対応してまいります。特に、食品事業を中心にコスト上昇に価格改定が後追いとなっている事業においては、その追い付きを着実に進めてまいります。また、昨年10月に策定した「中期経営計画2026」で目指す姿を実現するべく、各事業はその対応を確実に実行してまいります。豪州製粉事業については、今般策定した中期経営計画でも業績改善を重点テーマの1つとしており、コアとなる事業基盤を確保した上で、継続的なコスト削減や強みを活かせる主力製品での売上拡大、収益性の高い市場の選択、ブランド化を図ることで、収益性の向上を図ってまいります。

2023年3月期の業績見通しにつきましては、売上高は7,800億円(前期比114.8%)、営業利益は330億円(前期比112.1%)、経常利益は350億円(前期比107.3%)と、昨年10月19日に修正した業績予想を据え置いております。ただし、親会社株主に帰属する当期純損益は、政策保有株式の売却益の計上を追加で織り込み、100億円の損失(従来予想は185億円の損失)に上方修正します。

当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向40%以上を基準として配当を行う基本方針のもと、当初の予想どおり、前期据え置き1株当たり年間39円から変更ありません。

以上